

# 日建連における労働環境整備・改善 に向けた取り組み

一般社団法人日本建設業連合会

## 1. はじめに

日本建設業連合会（略称：日建連）の前身である日本建設業団体連合会では、平成21年4月に「建設技能者の人材確保・育成に関する提言」を取りまとめ、建設業の将来を担うことになる若年建設技能者の確保・育成に向けた取り組みとして、6つの項目を掲げ提言を行った。その提言内における課題の一つである「作業所労働環境の改善」の推進施策として、会員企業の優れた取り組みの水平展開を図ることを目的として「快適職場表彰制度」を創設し、平成21年度から毎年継続して実施している。

### 【平成26年度「日建連 快適職場表彰」の目的】

日建連会員の作業所において、建設業の人材確保・育成に取り組む日建連会員にふさわしい快適職場環境の高度化に寄与すること、また女性の活躍を促進することを目的とする。

創設当初から、「現在働いている建設技能者にとってはもとより、将来建設業界を目指す若者にとっても魅力ある職場環境づくりに寄与する施設・施策であること」という基準を軸とし、継続して実施しているところであるが、建設業界を取

り巻く環境の変化に応じ、毎年若干の基準の見直しも図っている。

日建連が本年3月に発表した「建設業の長期ビジョン」において述べているとおり、現在65歳以上の団塊の世代に属する労働者を中心として2025年度までに128万人が離職するという事態を鑑みると、技能労働者の世代交代、まさに「若返り」が非常に重要となってくる。生産年齢人口が減少する中で世代交代に取り組むためには、女性の活用が重要であることから、早期に女性が活躍できる諸条件を整備する必要がある。

このような観点から、平成26年度からは本快適職場表彰の選考基準に「女性にとって働きやすい環境（設備、制度等）が整備され、女性に活用されていること」という項目を追加し、会員企業から広く募集を行った。

## 2. 平成26年度「日建連 快適職場表彰」 選考結果

平成26年度においては、日建連会員企業21社164現場からの応募があり、特に女性にとって働きやすい職場環境づくりを選考基準としたことから、応募件数、社数とも前年度に比べ増加するに至った。選考は、学識経験者、行政、マスコミ等有識者から構成する選考委員会で行い、最優秀賞1件、「けんせつ小町」優秀賞1件、優秀賞3件、

特別賞10件を選考いただいた。ここでは、優秀賞以上の5事例を具体的に紹介させていただく。なお、記載事項は、昨年度募集時点現在の内容である。

《最優秀賞：(仮称) 秋葉原開発プロジェクト新築工事作業所》

テーマ：家族に誇れる・家族から見える職場

閉鎖された仮囲いの中での見えない仕事(職場)を、そこで働く職人が存在意義を持ち、家族に誇れる・家族から見える仕事(職場)にしたいという理由のもと、本テーマを設定された。具体的な実施事項及びその効果は以下のとおりである。

【実施事項①】：節目での家族見学会の実施

- ・職人の家族を招いての模擬朝礼，体操，危険予知活動
- ・現場の見学及び記念撮影
- ・発注者，設計事務所，作業所所員，職人とその家族の懇親会の開催

【その効果】

普段は分からない現場で働く職人の姿・環境を家族に知ってもらうことで、家族との仕事についての会話が増え、また家族お互いが感謝しあうきっかけとなり、今後のモチベーションの向上につながった。

【実施事項②】：自分の存在意義・記録と記憶を残す

- ・工程写真ではなく職人として真剣に働く姿を撮影し，本人や仲間・家族に渡す。
- ・節目での表彰を行う。
- ・写真や動画をDVDで編集し，安全大会時に配布する。

【その効果】

職人にフォーカスした写真を撮影し配布することで、職人が自分自身では知らなかった自分の働く姿を知り、自分の存在意義や仲間との関わり・その大切さを知るきっかけとなっている。

【実施事項③】：発注者から職人までの一体感の共有

- ・施主・設計事務所への現場見学会の随時開催

- ・職人の働く写真や編集したDVDの発注者への展示
- ・発注者，設計事務所，職人とその家族での合同BBQ大会の開催

【その効果】

発注者が現場・職人の素晴らしさや苦労の理解を深め、出来栄だけでなく一日一日の経過を共有することで現場との一体感を醸成している。また発注者から直接職人に感謝の意を伝えていただくこともあり、職人の誇りとやる気が芽生えるきっかけとなっている。

《「けんせつ小町」優秀賞：(仮称) 阿倍野区王子町計画新築工事》

テーマ：安全・美しい現場で「働き易い職場」を造り、「いいモノ」造り

安全な美しい現場が、働き易い職場・いいモノ造りの第一歩であることをモットーに、新しい目線(女性も含む)で見て、「スキ・モレのないきめ細かな配慮」がなされた現場を目指していきたいとの理由から、本テーマを設定された。具体的な実施事項及びその効果は以下のとおりである。

【実施事項①】：きめ細かな配慮

新しい視点・女性の感性を取り入れた現場管理を行うために「あべの王子小町」を結成(「なでしこ工事チーム」に登録済)。今後のいろいろな活動を通して、「スキ・モレのないきめ細かな配慮」を推進していく。

【その効果】

現在、7業種11名の女性が参加して「あべの王子小町」チームとして活動中(メンバーは今後さらに増える予定)。まず女性用のインフラ整備から始め「働き易い職場」造りを始めている。全作業員のサポートを受け鋭意展開中。

【実施事項②】：作業所のしつらえ

作業所の顔である入口を整備、先行して道路・歩道を仕上げ工事中も使用する。歩車分離かつゲートを後退させ入退場時の交通災害リスクの低減を図る。また、事務所・詰所までの安全通路も兼ねて歩道を利用する。

## 【その効果】

作業所を訪れる方（第三者も含む）のイメージアップになっている。緑地帯の設置・コーナー部分の透明万能板の採用・警備員ボックス上部の屋根の設置等のきめ細かな配慮を感じ取ってもらい全作業員の意識向上につながっている。

## 【実施事項③】：まずは足元から

高齢者・女性作業員・不慣れな作業員等に配慮するため、詰所廻り、場内の段差を極力なくし、雨天時においてもスムーズな歩行ができるように場内をほぼフラットに整備。コンクリート舗装・敷鉄板、ラインペイント等で足元廻りの整備を強化する。

## 【その効果】

足元廻りを整備することが作業所全体の美化に連鎖していく。土・泥・埃等が少なく雨天時でも通路・トイレ・建物内・詰所内を汚すことがない。整備された通路の周りには整然と材料・資材が並べられ、安全で美しい現場で「いいモノ」造りに取り組んでいる。

《優秀賞：（仮称）総合スポーツセンター体育館新築工事（建築本體工事）》

テーマ：作業環境・段取り力・チーム力の向上で作業所の魅力をUPさせよう！

「作業員さんがぜひとも行きたいと思う現場」＝「魅力ある現場」だと考え、作業所の魅力をUPさせるのが、①作業環境の向上、②段取り力の向上、③チーム力の向上の3点と考え、本テーマを設定された。

## 【実施事項①】

作業環境の向上のために新たな休憩所への挑戦を行った。卓球台・畳スペースを完備した「リフレッシュルーム」、テーブルクロスやタイルカーペット敷きの「清潔な休憩所」、女性でも安心して使用できる「女性専用水洗トイレ」等を設置した。

## 【その効果】

「リフレッシュルーム」や「清潔な休憩所」は、休憩時間に横になることができたり、卓球ができ

たりととても快適な時間が過ごせると大好評。女性用トイレは女性作業員が配員しやすいと評判であった。

## 【実施事項②】

段取り力の向上として、「大梁・小梁のサイトPC化」・「ST枠やフラットデッキ型枠の多用による型枠支保工のシステム化」・「鳶工による型枠支保工の設置等、躯体工事のワークシェア化」を実施した。

## 【その効果】

「PC化・システム化」により作業員さんへの負担を軽減することができた。また、「ワークシェア化」により各社の作業量を均一化し、少数精鋭の固定メンバーで工事ができた。他現場への移動がなく、朝・夕にゆとりの時間が持てた。

## 【実施事項③】

チーム力向上として、「大運動会の開催」・「職長会名の決定→KSC48」・「朝礼後チーム対抗のウォーミングアップ縄跳び」・「発注者・設計・監理・施工者・作業員による集合写真撮影」等各種イベントを多数開催した。

## 【その効果】

大運動会は職長会主導で開催し、他業種間での絆がとて深まった。また、工程の節目では、作業員さんと発注者・設計者も一緒に集合写真を撮影し、より一層連帯感が強くなった。

《優秀賞：千住関屋ポンプ所建設その3工事》

テーマ：安全と職場環境に妥協なし、周辺環境に気を配り、みんなで考えみんなで実践

現場の職場環境は、「現場で働く全員が当事者となり作り上げる」という理念のもと、JV職員と職長会が一丸となって環境改善に取り組む雰囲気を作り、その協力体制のなか近隣住民への最適・最良の対応を行うことを目的とし、本テーマを設定された。

## 【実施事項①】

職長会では職場環境改善の観点からトイレや休憩所の清掃を当番化。快適職場に貢献した作業員をGood Job Worker (GJW) に選出。女子更衣室

と女性専用トイレを設置、「女性の会」では職場環境の意見交換の場を設けた（現在女性就労者5名）。

【その効果】

職長会では活発に意見が交わされ、GJWの選出から業者の垣根を越えた連携を図ることができ、環境改善と同時に現場雰囲気が活性化した。また女性の会発案による女性目線の細やかな意見を取り入れ、詰所の分煙化や朝礼時の身嗜み確認を行い快適職場へ貢献した。

【実施事項②】

（ATK）安全点検確認（KY）危険予知を一人で実施する一人ATKY（アタックケイワイ）活動を実施。重点項目を選定、指差呼称の看板を掲示。音声支援装置と指差呼称ゲートを設置。月に一度訓練日と一人ATKY推進委員によるパトロール日を設けた。

【その効果】

一人ATKY推進週間で実施したアンケート結果によると、一人ATKYを行った回数が平均8回/日以上となり声掛け作業が増え、各作業場所に対応した看板や現場ルールを掲示し、危険個所の注意喚起を行ったことで、個々の安全に対する意識向上に繋がった。

【実施事項③】

近隣住民や業界関係者を対象に現場見学会を定期的実施し、約100回開催、約2,000人が来場。小学生参加時には職種別座談会を実施。現場防音壁には近隣の小学校の生徒が描いた絵の掲示や、12月にはタワークレーンにイルミネーションを設置した。

【その効果】

見学会では工事の理解をいただくと共に近隣住民と良好な関係を築き、小学生参加時には座談会と重機遠隔操作・高車・クレーン合図体験を行い質問を次々を受け、次世代の工事への興味を促進した。イルミネーションは大好評をいただき建設業のイメージアップに貢献した。

《優秀賞：釜石市上中島町復興公営住宅Ⅱ期整備工事》

テーマ：被災地復興工事における働きやすい職場づくり

東日本大震災の被災地域における復興工事は、周辺の食住環境が整わない中で、遠方から赴任する作業員にとって厳しいものとなっていることから、様々な面から環境を整備し、作業員が働きやすい職場を目指し、本テーマを設定された。

【実施事項①】

被災地の宿舎不足が深刻な中、建築主の遊休資産となっていたアパート50室を借上げ、備品、寝具、家電から厚生用品までを元請で準備し、遠方から赴任する作業員が不自由なく生活できる体制を整えた。

【その効果】

遠方から赴任する作業員がストレスを感じることなく被災地での生活を送ることができた。また同居している作業員同士の絆が深まり、工程どおりに復興公営住宅を建設するという目標に一丸となって取り組むことができた。

【実施事項②】

自炊が苦手な作業員のために、事務所の一部を休憩所兼食堂に改造したうえで、地元の食材店と契約をし、元請職員及び協力会社作業員向けのケータリングを実施した。

【その効果】

周辺に食事を提供する店舗が乏しい中、元請主導でケータリングサービスを実施したことにより、遠方より単身で赴任した作業員が食事環境に不自由せず、栄養価の高い食事を摂取することができた。

【実施事項③】

積極的に女性職人による安全衛生パトロールや、女性を含む地元高校生による現場見学会を実施し、女性が働きやすい環境整備と魅力ある職場づくりに取り組んだ。

【その効果】

いつもとは異なる視点で作業所を点検してもらうことで、特に衛生管理面で多くの気づきがあっ

た。女性が安心して働く職場となるよう女性用トイレや女子更衣室の設置等様々な施策を行うきっかけとなった。また、若者へ建設業の魅力をアピールすることができた。

### 3. おわりに

選考委員からは、「人手不足の解消には、若い人に現場の魅力を感じてもらうことが大切であり、現場はそこで働く様々な人にやさしい職場であってほしい。快適職場への取り組みは、その第一歩である。受賞作業所は、先進的な取り組みをされている」との講評をいただいた。また、主催者である日建連労働委員会今井委員長からは、

「技能労働者に対する温かい思いやりと、建設業への熱い思いと誇りによって快適職場への取り組みがなされていると確信している」との挨拶をいただいた。

本表彰は、本年度についても継続して実施する予定であり、現在鋭意準備中であるが、選考基準として新たに「休日増加に向けた取り組みや社会保険の加入促進」といった、建設業界が直面する直近の課題に対する要素も加味したいと考えている。日建連会員企業の現場のみならず、受賞作業所の特長的な取り組みに関しては、広く参考にさせていただき、快適職場環境の高度化の一助としていただければ幸いである。